平成28年度 学校関係者評価書

北海道士幌高等学校

1 本年度の重点目標

(1)一人ひとりの生徒を大切に教育の推進に努める。
(2)すべての教育活動を通して自律性の伸長を図る。
(3)進路目標が達成できるよう、継続的に努力する態度を養う。

学校評価委員会
学校評議員 5名
P T A 役員 5名
同窓会役員 4名

2 本年度の経営方針

(1)生徒一人ひとりの個性を生かし、学ぶ意欲と確かな学力の向上を図る。
(2)教職員の協働意識を高め、組織連携による指導体制の充実を図る。
(3)当面の課題への対応と将来ビジョンを持って教育指導に当たる。
(4)地域との行動連携により、開かれた学校づくりを進める。

3 自己評価結果に対する外部評価

分野・領域	評価項目	達成状況	改善の方策	「自己評価」の適切さ	「改善の方策」の適切さ
学習指導	1 個に応じた指導を充実し、基礎基本の定着を図っている	A	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価やアクティブラーニングについて、各教科を中心に研究・実践し、成果報告を行う等、校内研修を充実させ、より実践的な授業研究を実施する。 生徒の能力、実態に応じ、習熟度別指導を取り入れるなど、授業方法の研修を行う。 進路目標を明確にもたせることで、学習の必要性を認識させ、自ら学ぶ意識を高める。 i Bノートを活用するなどして、日々の振り返りをしっかりとさせる。 考查前に学習計画を立てさせる。 	A	A
	2 生徒の実態・進路に応じた学習指導方法や評価の研究を推進し、学力の向上を図っている	B			
	3 自主的・能動的な学習態度を育成し、学習意欲の向上を図っている	B			
	4 新学習指導要領のねらいに応じた授業改善が図られるよう努めている	B			
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中できない生徒に対しての指導を今後もしっかりとやって、同じ方向を向いて授業を受ける姿勢を育てて欲しい。 上高の個々の生徒に対応するやり方で、助かっていると感じている生徒や保護者もいる。出来ない生徒は切り捨てるのではなく、今後も個々の生徒に対応し、粘り強く面倒を見て欲しい。 i Bノートについては小中でも今年度から取り組み始めた。効果が上がるように徹底して欲しい。 数年後、大学の受験内容が大きく変わるので、しっかり対応して欲しい。期待している。 				
生徒指導	1 面談等を通じて生徒理解に努め、基本的な生活習慣の確立を図っている	A	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間やL H Rを活用し、人間関係プログラムを実施し、「安心感」や「親密感」、「自他の尊重」を醸成する。 担任、部活動顧問、進路担当者等の休み時間や放課後の時間を確保し、面談を通して、生徒理解に努めるとともに、普段の行動が今後の人間関係に関わっていくことを理解させる。 教員が部活動につける時間を確保するため、教員間の業務分担、整理を行う。また、部活動を通して育てたい力を明確にし、共通した指導を行う。 いじめのアンケートの結果を共有し、職員全体で、状況が把握できるシステムにする。 	A	A
	2 生徒会活動・部活動を通して自ら考え、正しく判断し行動できる力の育成を図っている	B			
	3 集団の一員として相互に助け合い、豊かな人間性を育てている	B			
	4 いじめの根絶や問題行動の未然防止に向け、きめ細かな指導を行っている	B			
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに対して、根気よく接していると思う。 いまだに挨拶をしない生徒もいる。指導されて言われている感じが強いのではないかと。自然に身に付いていないのは親の責任でもあるが。 助け合う心や豊かな人間性を育てるのは難しいと思うが、粘り強く続けて欲しい。 				
進路指導	1 自己理解を深め、能力・適性に応じた進路目標を早期に設定できるよう指導している	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解や目標設定がよりスムーズになるように、進路シラバス、進路ファイルの活用方法を充実させる。 個人面談や保護者との面談を活用し、本校のキャリア教育を理解してもらう。 講習などの進路活動が形骸化しないよう、学年との連携を図り中身のある取組にする。 資格取得に限らず、学習や部活動など小さな目標を1つずつ乗り越えさせることで生徒の成長を促していく。 生徒との面談の時間を確保し、総合的な学習の時間も活用しながら、自己理解を高める機会 	A	A
	2 3年間を見通したキャリア教育の推進を図っている	B			
	3 資格取得の推進をしている	B			
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 就職後の子ども達の様子も見守っているのが嬉しかった。 時代を生き抜く力「人間力」の向上を目指して、生徒のいいところを取り上げて伸ばす取組をもっとやった方がよい。 外部の力を活用したり、司法試験の問題を何気なく取り上げたりしながら、生徒にインテリジェンスを与えることを考えてもよい。 				
健康安全指導	1 健康や体力増進を図るとともに、精神保健面の指導を行い健全な心身の育成に努めている	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種講話等を効果的に計画・実施し、健全な心身の育成に努める。 緊急時の対応を教職員間で共通理解するとともに、家庭との連携も密にし、生徒の安全を確保するよう努める。 	B	A
	2 安全・防災教育の充実を図り、緊急時の対応を身につけさせている	B			
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ただ参加して一緒に話を聞くだけでなく、保護者や地域の人材を講師等に活用すると効果的。 避難訓練等、外部の者には特にわからない取組である。もっと地域との関わりを増やした方がよい。 				
学校運営	1 教職員間の連携を強め、協働体制を高めている	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題の共通理解と目標の具体化、数値化をより一層進め、解決に向けた議論の場を積極的に推進する。 学校ホームページの一層の充実を図るとともに、メールの一斉配信も検討するなどして、授業の状況など教育活動の情報をより積極的に地域や保護者に発信する。 学校評価体制を活用し、地域や保護者、教職員の意見を学校運営に反映させる。 	A	A
	2 教育活動の点検・評価を確実に行い、工夫・改善や問題解決の道筋を共有している	B			
	3 情報発信し、保護者や地域からの信頼に応えようとしている	B			
	4 報告・連絡・相談体制の推進に努めている	B			
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 町民が必要としないと学校はすぐになくなってしまふ。町内で働く卒業生の声を手取り上げると、学校の情報発信をうまくやった方がよい。 学校だより等で情報は入ってくるが、地域との繋がりが少ないように感じる。 				
資質向上	1 公開授業・授業評価等を通して授業力の向上を図っている	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修への積極的参加を促し、報告書や報告会を充実させ、教職員間の共有を更に推進する。 勤務規律の保持について、会議や研修の場だけでなく、日常の会話等を通して啓発する。 業務の精選を図るとともに、教職員の意識の啓発を行い、勤務時間の厳正化に努める。 	A	A
	2 勤務規律の厳正な保持に努めている	A			
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観等に、より参加しやすくして欲しい。 負担は増えると思うが、小中高の連携をうまく生かして欲しい。 				
開かれた学校	1 文書・通信の発行、HPの更新を図っている	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの細かな更新や、学校だよりの読みやすい紙面作りに努めるなど、より一層の充実を図る。 授業参観や各種講演会について、保護者や地域への案内を積極的に行うとともに、来校しやすい日や時間の設定にも心がける。 	A	B
	2 参観・見学の促進を図り、保護者や地域に丁寧な説明を行っている	A			
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 「お金をかけて質の悪い生徒を集めている」「先輩がこわい」「部活が一生懸命じゃない」等、地域の声にはいまだにあまり良くないものも多い。学校に来るとそうでないことがわかる。町の行事やボランティアに生徒を参加させるなど、もっと積極的に外に出る必要がある。 何を伝えたいのかわかりづらいものもある。もっと工夫が必要。 				

達成状況及び評価について

評価規準 A：十分である B：概ね十分である C：不十分である D：改善を要する